
赤い正義

大輔(だーすけ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い正義

【Nコード】

N9786N

【作者名】

だいすけ
大輔

【あらすじ】

手から零れ落ちたのは、時間が、気持ちか、友達か、真実か。正義を守るために自ら道を外れた男は、目が覚めると柔らかな光と花が揺れるのを見た。

「夢か……」赤い花は真実だと語っているのに。

思わず私は笑ってしまった。

男がぎゃあぎゃああと喚き始めたのだ。自分が悪いのに屁理屈こねて俺が正義だとか言い出す始末。

「正義だつて？正義を掲げられるのは勝ち組だけだ………そうだろう？」

手など差し伸べない。思い切り見下して笑う。

それが許されるのは勝ち組だからだ。私は負け組みからよじ登ってきた。だから、

「君たちを笑えるんだよ」

真つ暗になった箱の中に私はいる。この箱が何なのかは知らない。

真冬の海かもしれないし、樹海かもしれないし、心かもしれないし、過去やプライドかもしれない。

いや、そんなことはどうでもいい。

つまり重要なのは、どうすれば出られるか、だ。まだ私は死ぬ気はない。

口を開けば何かが入ってくる。

目を開けば汚れ濁って見える。

こんなにも世界は酷いのだ。

「そう………正義なんて血で汚れているくらい。」

私は口角を上げた。しかし出来なかった。

気付けば白い天井が見える。体中何処も動けないのは、何故だろうか。

耳の奥で声が聞こえる。昔に聞いた言葉だったか。

なんとも云えない懐かしさと、苦い気持ち広がる。

『お前、本当に自分が正義だと思ってるのか？』

そしたら、馬鹿だ。今言われたわけでもないのに、頭にガツンと衝撃が走った。

「私がどうしてうるたえる……正義なのに。」

思ったより乾いた声で、力が無さ気だ。悪態をついた。

ドアが開く。特に人が話すわけでもない。私の横で何かをするだけだ。

疑問に思えば質問する。

「何を、しているんだ」

返事はない。分かりきったことを、ふんと鼻を鳴らして自分を嘲る。

こんなところにいるからと、弱気になってるんじゃない……

見たことのある赤い花が最後に飾られた。

ああ、そっか。そういうことが。

ふと、全てが可笑しくみえた。

「なあ、正義って何だろな。」

返事なんて期待していなかった。でも、私の横の背を向けた男に語りかけた。

思いがけず返事が返ってきた。

「正義なんざ白か黒だ。」

「赤だつてあるんじゃないのか？」

鼻で笑われる。男は出て行った。

ちゃんと分かっていたはずだろう、男のことだ。

「赤い正義だつてあるのよ。真の正義ってやつだな。」

気付けば正義は血で染まっていた。これぞ赤い正義。
最後のプライドをかけた。

花瓶のアネモネが首を傾げて見ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9786n/>

赤い正義

2011年10月8日01時15分発行